

図8．海底地震計のデータを用いて再決定した3月9日の前震（白星）とその余震（白丸）及び3月11日の本震（赤星）の震源深さ分布（Hino et al., AOGS, 2011）。背景は人工地震探査による前震一本震活動域における2次元P波速度構造モデル（Ito et al., GRL, 2004）（東北大学〔課題番号：1205〕）。

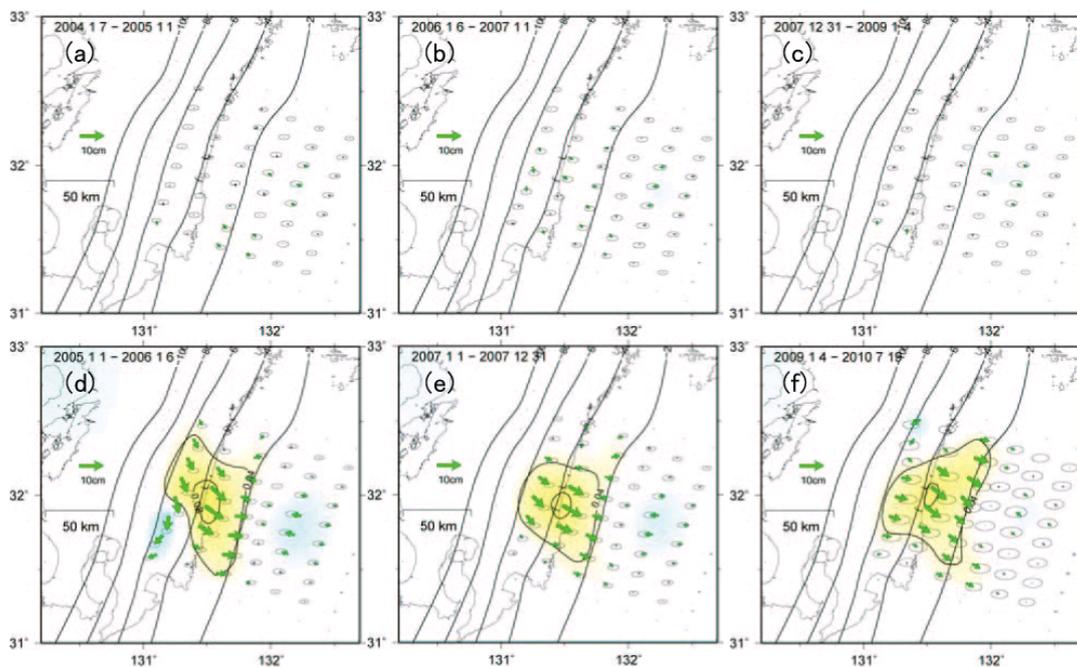


図9．日向灘で発生したスロースリップの滑り分布。2005年以降(d)～(f)の期間で繰り返し発生。(a)～(c)は発生していない期間（国土地理院〔課題番号：6014〕）。

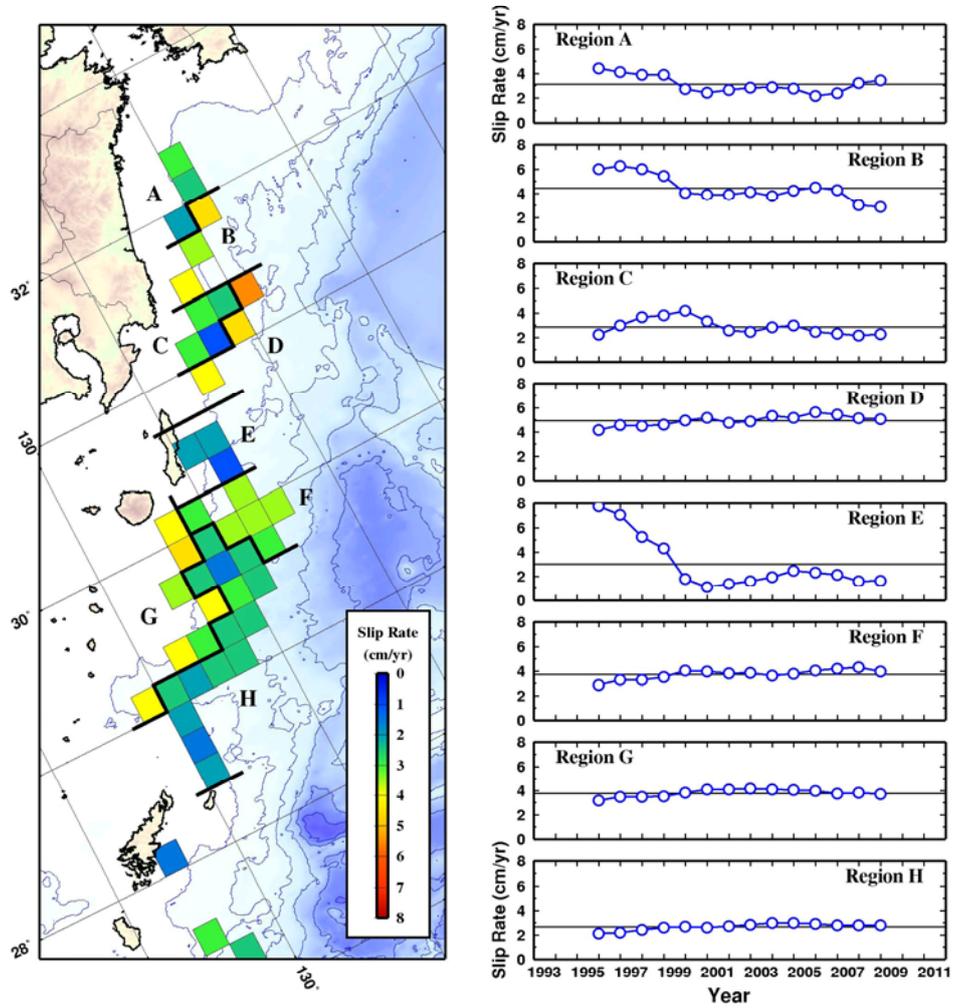


図10. 相似地震活動から推定された準静的滑り速度の空間分布（左図）と時間変化（右図）。解析期間は1993年4月～2011年9月である。左図の太線と添字は、準静的滑り速度の時間変化を求める際の領域分けを示している。右図で示されている準静的滑り速度は期間長6年について求められたもので、値は中央時にプロットされている。右図中の黒横線は準静的滑り速度の平均値（鹿児島大学 [課題番号：2301]）。